

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

日本音楽集団

第百十一回◆定期演奏会

二十絃箏・誕生二十年

新しい箏・二十絃箏が誕生して二十年になりました。

ソロ楽器として、あるいはアンサンブルの一員として
かかせない魅力を集集します。

一九八九年十二月十二日(火)
午後七時開演
午後六時半開場
津田ホール(千駄ヶ谷駅前)

一、北の詩 (1984年) より

三木 稔 作曲

〈夜明け〉 〈虫たちの踊り〉 〈精霊の舞〉 〈大地に舞う〉

〔 笛 〕 竹井 誠 〔尺八Ⅰ〕 素川 欣也 〔尺八Ⅱ〕 水川 寿也
〔 胡 弓 〕 坂田 進一(客演) 〔三味線〕 野口美恵子 〔琵琶〕 山田まゆ美
〔二十絃箏Ⅰ〕 熊沢栄利子 〔二十絃箏Ⅱ〕 久東 寿子 〔十七絃〕 山田 明美
〔打楽器〕 高橋 明邦・細谷 一郎 〔指 揮〕 稲田 康

この曲は、数年前の東北北海道公演の為に作られた作品である。全体が6章からなり、それぞれ、〈夜明け〉〈ユリの踊り〉〈虫たちの踊り〉〈精霊の舞〉〈おどけ〉〈大地に舞う〉とタイトルが付いていて、北国の様々な生の躍動を描いている。実は先月、ベルギーでも演奏する機会があった。この国は北海道より更に北、千島列島の上部ぐらいの緯度に位置し、北海に面している。首都ブリュッセルの夜明け、ブルージュの華麗な街並、港街オステンドに沈む夕陽。どれも素晴らしく、また公演の移動中、バスや列車から眺めるのどかな田園風景、牛や羊の群れる様、古城などは各公演にのぞむメンバーの気持ちを大いに和ませてくれた。「西欧」のヘソ(EC本部を抱える)とも言えるこの国で「北国」の風土をタップリ味わいつつ、この曲を演奏できたことは、今思えば大変有意義なことであった。(竹井誠)

二、箏 譚詩集第二集 (1970~76年)

三木 稔 作曲

〈芽生え〉 〈やよい〉 〈ひばり〉 〈里曲(さとわ)〉 〈華やぎ〉

〔二十絃箏独奏〕 吉村 七重

「箏 譚詩集第二集」は、三木稔氏によって作曲された二十絃箏のための五つの小品よりなっています。1970年の12月に書かれた第二曲目の〈やよい〉が最も早く作曲され、続いて1972年12月に〈芽生え〉、1976年に〈ひばり〉〈里曲〉〈華やぎ〉の3曲が作曲され完成しました。初演は言うまでもなく野坂恵子師で、野坂恵子二十絃エコール第二回演奏会霜月の会のことです。〈芽生え〉は二十絃箏を弾き始めた人にとっての最初の目標であり、あこがれてしたし、〈華やぎ〉は箏の技術革新ともいべきものでした。この二曲が演奏された回数は群を抜いていると思われませんが、フワッと宙を漂うサーモンピンクの雲のようなくやよい、何だか待ちきれなくて力いっぱい空にかけ上る喜び、さえずる喜びをせっかちに歌う〈ひばり〉、うす紫にぼやけた低い山の端が目浮かぶような〈里曲〉と、それぞれに春を象徴しています。(吉村七重)

三、わ (1976年)

三木 稔 作曲

〔尺八〕 米澤 浩 〔三味線〕 太田 幸子 〔琵琶〕 田原 順子
〔二十絃箏〕 内藤 洋子 〔十七絃〕 宮越 圭子 〔打楽器〕 前田 文男

一文字の平仮名のタイトルだが、日本及び平和に係わる『和』と、手をつなぐ『輪』、それに驚きの『ワッ』等が微妙に音楽内容に投影されるように書かれている。徹底したヘテロフォニーと即興感覚で貫かれており、また終り近くに各楽器のカデンツァが繰り広げられる。小人数で編成された、1976年アメリカ公演の為に作曲され、以来小編成での海外公演の際、客席とステージが一体となれることから大変好評を得ている。

今秋、ベルギーで開催された「ユーロパリア'89ジャパン」(ヨーロッパ最大の文化と芸術の祭典で、設立20周年、第10回にヨーロッパ以外の国で初めて日本がテーマ国に選ばれた)では、ブリュッセル王位音楽院コンサートホールに於て、プログラムの最後を飾るにふさわしい熱演を展開した。

今宵、津田ホールに描き出される『WA』を、御一緒に感じていただきたい。

(内藤洋子)

四、花片舞^(はなびらまい)—三面の二十絃箏の為の—^(委嘱初演)(1989年)

金田潮兒 作曲

〔二十絃箏Ⅰ〕内藤 洋子 〔二十絃箏Ⅱ〕大畠菜穂子 〔二十絃箏Ⅲ〕佐藤由香里

この「花片舞」は今年の春に書いた作品です。私の勤めている東京学芸大学や近くの小金井公園では素晴らしい桜の花を毎年観ることが出来ます。咲き初めから満開に至る過程は勿論ですが、私には満開の桜が散り始める頃が一番印象的です。無情な風や雨のなか花片が舞う様を見るにつけ我を忘れ、唯々無我の境を彷徨うのです(単に花見酒の為せる業という説も有ります)。という様な訳でこの曲を作りました。

全体は Intoro + A + B + A + C + Coda の部分から成っています。CはAの拡大的展開、CodaはIntoroと同じ要素から出来ています。Intoro、A、C及びCodaはcis、d、es、fis、g、as、hの7音音階から成り(第一箏の中央のcisはcになっています)、Bの部分はe、f、a、h、d及びcis、d、fis、gis、hの5音音階で出来ています。日本音楽集団の皆様様の素晴らしい演奏を今から楽しみにしています。

(平成元年11月20日 金田潮兒)

金田潮兒氏プロフィール

現在東京学芸大学助教授として教鞭をとる傍ら作品発表活動を続けている。主な作品としてはADORATION-II(1979)、天啓-I・II(1980)、SELECTION-II(1983)、AMBIVALENCE-I・IV(1986)、TRANSFIGURATION-II(1988)等がある。

五、竜女の玉—「竹取物語」より— (1976年) 海津勝一郎 作 長沢勝俊 作曲

語り=稲垣 隆史 (劇団民芸)

〔 笛 〕 西川 浩平	〔尺 八 Ⅰ〕 藤崎 重康	〔尺 八 Ⅱ〕 素川 欣也
〔尺 八 Ⅲ〕 米澤 浩	〔三味線Ⅰ〕 野口美恵子	〔三味線Ⅱ〕 田中悠美子
〔 琵琶 〕 半田 淳子	〔二十絃箏〕 白根きぬ子	〔十三絃箏〕 花房はるえ
〔十七絃〕 宮越 圭子	〔打楽器Ⅰ〕 尾崎 太一	〔打楽器Ⅱ〕 高橋 明邦
〔折楽器Ⅲ〕 前田 文男	〔指 揮 〕 稲田 康	

この曲は、わが国最古の古典といわれている物語を、国文学に造詣の深い海津勝一郎さんが大胆に脚色した、かなしくも美しい物語です。各楽器にそれぞれの人物をあてはめ(かぐや姫は二十絃箏、少将の君は篠笛、竜女は琵琶等)楽器と語りの掛け合いの中で両者の有機的なむすびつきを目指したものです。特に二十絃箏はかぐや姫の分身として、語りとともに主役をつとめることになります。

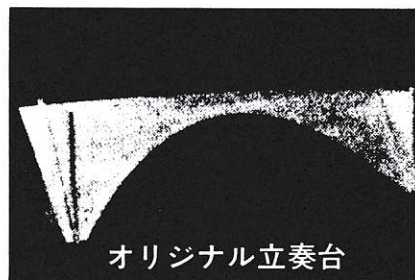
1976年7月のコンサートシリーズNo.35の初演以来、数回の公演をかさね、東京においては今回で4回目をむかえることになりました。語りには今回もまた劇団民芸の稲垣さんをお願いしました。劇団民芸の舞台で数多くの役をこなしてこれ、また音楽にも大変強く集団との御縁も深い稲垣さんの久しぶりの名調子と、集団のアンサンブルとの立体的な舞台をお楽しみ頂きたいと思っております。

(長沢勝俊)

稲垣隆史氏プロフィール

初め音楽の道を志しピアノを豊増昇氏、作曲を池内友次郎氏に師事するが演劇に転向。俳優座養成所を経て劇団「民芸」に入団。宇野重吉演出「檻」でデビュー、多くの映画テレビに出演後、舞台に専念。代表作は「セールスマンの死」のハッピー、「るつぼ」のヘイル牧師、「こわれがめ」のループレヒト、「アンネの日記」のデュッセル、「夜明け前」の伊之助等、その間「山椒大夫」の厨子王役でメキシコの演劇祭に参加、メキシコを始めペルーの各市を巡演、最近では「第二次世界大戦のシュベーク」のヒトラー、「炎の人ゴッホ」のロートレックで絶賛を博す。その他、日本音楽集団に客演し、LPレコード「八郎物語」を出す。劇団の公演の合間を縫って「雨月物語」を半田淳子氏の琵琶と「一人芝居」と言う形で公演活動を続けている。

箏



オリジナル立奏台

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に
音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(792)8481 FAX(792)8437